



ゆうあい

校長ブログ



学校教育目標：『在りたい自分を創る主人公』

2025(Ｒ7)年5月14日
豊岡市立豊岡小学校 学校だより
No3 児童数323名

子どもが育つ「良い関係性」

～特別活動における非認知能力の育ち～

◆5月9日に、1年生を迎える会がありました。「どんな子どもの姿が見られるのかな？」と楽しみにしていました。すると、次のような姿があちこちで見られました。

- 縦割りグループで並ぶ時、高学年が指示したり背中に手を添えたりすると、下級生がずっと動く。他者からの関わりを素直に受け入れている。
- 1年生に向けて全校生で歌を歌う時、体を揺らしながら一生懸命1年生に向けて歌っている。6年生の「心を込めて歌おう」という呼びかけに、素直に応えようとしている。
- 6年生がクイズを出す時、「静かに」と言われなくても静寂を創り、問題を聴きとっている。正解発表の時は体全体で喜びを表現している。しかし、そのあとすぐに自分の意志で、周りの雰囲気を読み取り静寂に戻っている。
- 迎える会の途中でも、他者を邪魔したり、関係ないことをしたりして会の進行を妨げるようなことをする子はいない。自分の欲求をぐっと抑えコントロールできている。その場から逃げ出さず、自分の意志で会に参加し、会を創っている。
- 6年生は本部役員だけでなく、各班にいる一人一人がリーダーになったりフォロワーになったりしながら、会の進行を支えている。他者に貢献する意識が行動に良く表れている。

◆豊岡小学校の子どもは、他者とよい関係性を築く人であってほしいと思います。今日の会では、縦割り班のたくさんの仲間と、良い関係性を築く場となりました。普段は同学年での授業や活動が多いのですが、上級生・下級生との活動では、子どもの中にある違うスイッチが入り、非認知能力が発揮されていました。社会に出れば、様々な年齢、世代の方と一緒に仕事をしたり活動をしたりする場面がほとんどです。登校班や縦割り活動など、日常の中にも、異年齢の人と関係性を創る場があります。教師の介入を極力減らし、「子どもたちは今何を学び取っているのだろう」と非認知能力の向上のプロセスと子どもの育ちを見届けたいと思います。



手をつないでもらったよ



プレゼントをもらったよ



歌も歌ってくれたよ

豊岡市ふるさと教育～豊岡の自慢を見つけよう～

- ◆ 4年生が総合的な学習の時間に、豊岡の自慢を見つける学習をしています。豊岡の誇れる産業について、調べたり出かけたりしながら、学習を深めていきます。5月1日には、遠藤カバンの遠藤玄一郎社長にお越しいただきました。子どもたちは、遠藤さんのお話に聞き入っていました。

実際にカバンをお持ちいただき、子どもたちは興味深そうに触っていました。子どもたちが本物に触れ、専門家に学び、豊岡の魅力をさらに学んで、自慢として発信してほしいと願っています。



学校の業務改善にご理解とご協力をお願いします

- ◆ 学校現場は極めて多忙で、すぐに解決できない課題が山積していると言われています。一人一人の子どもたちの健やかな成長を支え、よりきめ細やかな教育を行うために、業務の改善と働き方改革が不可欠となっています。
「子どもたちの変化を見逃さない、一人一人の子どもたちをたっぷりと受け止める。」そんなことができるのは、少しの余裕を持った教師であり続ける必要があると考えます。
- ◆ 国や市の働き方改革推進の目標は次のとおりです。

文部科学省⇒⇒⇒⇒1か月の在校等時間を超過勤務月あたり45時間以内
豊岡市教育委員会⇒時間外在校等時間が月45時間を超える教職員をゼロにする

しかし、現在の豊岡小学校では、その目標を大きく上回る超過勤務時間となっています。そのため、本年度も引き続き業務の削減を図っていきます。構造上の問題を明らかにし、業務の目的の見直し、取組の廃止や縮小、統合を進めていきます。一方、教職員の働き方改革、つまり意識改革も強力に進めていかなければなりません。「教職員の心身の健康を保つこと」が、結果として少しの余裕を持ち、子どもたちの関わりにプラスに働くのだと確信しています。

- ◆ 今後、学校運営協議会でも、学校業務改善について情報提供し、課題を共有しながら、議論を重ねていきます。持続可能な働き方や学校運営体制について、保護者・地域の皆様のご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いします。